

## 映画文化の振興について

### 1 取組の背景

- 本市では平成元年度から映像作品を活用した都市イメージアップ活動を開始。平成12年には全国に先駆けて北九州フィルム・コミッション（以下、KFC）を立ち上げ、映画やドラマの撮影の誘致、支援に取り組んできた。
- KFCでは撮影支援に止まらず、支援作品を利用し、舞台挨拶や映画監督を招いての映画関連イベント、ロケ地ツアーなどに取り組むことで、市民に映画文化を発信しフィルムコミッション事業を積極的にまちづくりに活用してきた。
- 国内作品に限らず海外作品の誘致活動も行い、新型コロナウイルス感染症の拡大前は、海外作品の撮影支援にも取り組んだ。

### 2 取組の位置づけ

「北九州市文化振興計画」（改定版、平成28年度～令和4年度）

（基本理念）

市民が文化芸術を身近に感じ、市民自身が文化芸術を支えるまち

#### 施策3 発信力の高い文化芸術の振興

（4）漫画や「映画の街」の施策の実施・支援

（推進していく主な取組）

- 映画やテレビドラマのロケを積極的に誘致し、北九州のイメージアップやまちのにぎわいづくりに寄与
- 収蔵資料を活用した魅力的な企画展示やイベントを行い、映画文化の振興を図る
- 海外（主に東アジア）における映画、TVドラマ誘致の強化

#### 施策7 文化芸術によるまちづくり

（1）まちのにぎわいづくり

（推進していく主な取組）

- 海外（主に東アジア）における映画、TVドラマ誘致の強化（再掲）

### 3 主な取組みと成果等（フィルム・コミッション事業）

#### （1）支援実績

① 平成元年から令和2年度末までの支援実績は582件。

合計	映画	ドラマ	CM等
582 (126)	115 (8)	256 (103)	211 (15)

※ 括弧内の数値は海外作品数。（内数）

※ CM等にはミュージックビデオ、アニメーション制作を含む。

② 平成30年度の支援件数は過去最高。

単位：本

国内外	H28	H29	H30	R01	R02
映画	4 ( 1 )	11 ( 2 )	6 ( 1 )	7 ( 1 )	3 ( 0 )
ドラマ	23 ( 10 )	13 ( 6 )	51 ( 48 )	29 ( 27 )	9 ( 0 )
CM等	8 ( 1 )	20 ( 4 )	39 ( 5 )	25 ( 5 )	39 ( 0 )
合計	35 ( 12 )	44 ( 12 )	96 ( 54 )	61 ( 33 )	51 ( 0 )

※ 括弧内の数値は海外作品数。(内数)

※ CM等にはミュージックビデオ、アニメーション制作を含む。

③ 平成18年度に初の海外作品支援を行い、令和元年度までは毎年支援を継続。これまで支援に関わった国・地域は7ヶ国・地域。

(タイ) 56本 (台湾) 32本 (シンガポール) 22本 (韓国) 7本  
(中国) 7本 (フィリピン) 1本 (アメリカ) 1本

④ 主な支援作品・・・別紙「近年の支援作品など」参照

4 フィルムコミッション事業に関する効果測定（直近5ヶ年、平成28年度から令和2年度）

(1) 経済波及効果額等

撮影隊へのアンケート調査結果を元に経済波及効果を算出。

経済波及効果額①+②	ロケ隊の活動			
	直接効果額①	間接効果額②	撮影日数	宿泊日数
18億7,643万円	12億2,980万円	6億4,663万円	620日	48,538日

※直接効果額：撮影隊等の市内での消費活動に伴うもの

※間接効果額：直接効果から誘発される生産の誘発及び雇用所得と消費から誘発されるもの

(2) エキストラ等の市民参加

単位：人

H28	H29	H30	R01	R02
7,903	8,260	11,513	1,593	312

(3) 認知度

市民へのアンケート調査結果を元に認知度等の把握。

単位：%

回答	H28	H29	H30	R01	R02
北九州FCの市民への認知度	91.2	88.1	87.9	89.5	86.8
自分の街が出てうれしく思った		69.0			69.5
家族や知人に教えなくなった		14.3			14.4

※「行政評価に係る市民アンケート調査（毎年）」「広報に関する調査（3年毎）」

#### (4) オール北九州ロケ作品など

「映画の街」を掲げ撮影支援に取り組んできた結果、「オール北九州ロケ作品」が実現すると共に「北九州市民の手による作品」の制作実績も生まれた。

別紙「近年の支援作品など」参照。

### 5 本市の映画文化を支える資源（主なもの）

#### (1) 松永文庫

- 松永 武 氏（故人）の私設資料館の収蔵資料の寄贈を受け、平成 21 年に門司市民会館内に開設。平成 25 年に旧大連航路上屋に移転。映画のポスターやパンフレット、新聞スクラップ等の貴重な映画芸能関連資料、約 5 万点を収蔵。常設展示と合わせて年 4 回の企画展を開催。
- 映画音楽のコンサートを開催する等、地域と結びついた映画文化の振興を担っている。

#### (2) エキストラ

- KFC では「エキストラ登録制度」を運用しており、登録者は約 7,500 人であり全国屈指。（令和 3 年 9 月末現在）

#### (3) その他

- 本市唯一のミニシアターである小倉昭和館（昭和 14 年創業）は、出演者や原作者を招いてのトークイベント等を企画し独自のスタイルで作品を上映。また、KFC 支援作品との連動企画等を開催しており、本市の映画文化を支える民間施設のひとつ。

### 6 「東アジア文化都市北九州 2020▶21」における取組

「東アジア文化都市北九州」において、本市の豊かな芸術文化の資源を組合せ、「映画の街」を掲げる本市ならではの事業を展開する。

#### (1) 「アートシネマ」（コア事業・文学）

本市ゆかりの作家の文芸作品が原作となった映画を連続上映するイベント。映画の上映のほか、上映作品や原作を紹介する小冊子の制作や作家等によるトークイベントを開催。大学生以下は観覧無料。芸術劇場を会場に中学生の映画鑑賞教室も実施予定。

（会 期） 令和 3 年 10 月 2 日～11 月 5 日

（会 場） 小倉昭和館、長崎街道木屋瀬宿記念館

- （内 容）
- ① 北九州市ゆかりの作家の映画化作品の上映
  - ② 作家や映画監督等によるトークまたはメッセージ動画の上映
  - ③ 上映作品と原作を紹介する小冊子の制作



## (2) 「北九州国際映画祭」 (コア事業・メディア芸術)

KFC 設立から 20 年。本市出身の リリー・フランキー氏 や 光石 研 氏 の協力によるプログラムを用意。オンラインでの配信とリアルの上映会のハイブリッド構成とし、本市に培われた映画文化を市民等と広く共有する機会とする。

(会 期) 令和 3 年 11 月 12 日 (金) ~14 日 (日) 3 日間

(会 場) 小倉昭和館

(内 容)

- ① リリー・フランキー氏プロデュースによるトークセッション特別番組の制作。
- ② K F C が支援した海外映画作品の本邦初となる上映。
- ③ K F C 支援の国内映画作品の上映  
( ②、③共に小倉昭和館 )
- ④ 光石 研 氏 出演による「(仮題) 北九州とわたし〜子どもたちへ〜」動画制作と配信

(視聴方法)

動画共有サイト YouTube 等での配信



PRポスター (案)

## 7 映画文化の振興に向けて

平成元年から都市のイメージアップに取り組んで30年、KFCを立ち上げて20年が経過した。これまで撮影の誘致、支援の実績を積み上げてきた結果として、経済波及効果額や認知度、エキストラ登録者の声からも一定の成果が見られる。

今後、これまでの実績について検証等を行うと共に、新たな視点も取り入れながら議論を深めることで、本市の映画文化の振興に努めてまいりたい。

## 近年の支援作品など

### 1 国内作品

- (1) 映画 「劇場版シグナル」(令和元年)  
監督 : 橋本 一  
出演 : 坂口 健太郎、北村 一輝、吉瀬 美智子 他  
ロケ地 : JR小倉駅南口、小倉北区役所周辺 他
- (2) ドラマ 「ドゲンジャーズ シーズン2」(令和2年)  
監督 : 荒川 史絵、鈴木 展弘  
出演 : 正木 郁、鈴木勝大 他  
ロケ地 : 太刀浦、門司区の砕石所 他
- (3) 映画 「劇場版仮面ライダービルド」(平成30年)  
監督 : 上堀内 佳寿也  
出演 : 犬飼 高丈、赤楚 衛二 他  
ロケ地 : 市役所前道路、門司港レトロ 他
- (4) ドラマ 「相棒シーズン17」(平成30年)  
監督 : 橋本 一  
出演 : 水谷 豊、反町 隆史ほか  
ロケ地 : 西日本工業倶楽部



### 2 オール北九州ロケ作品

- (1) 映画 「仮面病棟」(令和2年)  
監督 : 木村 ひさし  
出演 : 坂口 健太郎、永野 芽衣 他  
ロケ地 : 旧松井病院、小倉駅前 他
- (2) 映画 「レッドシューズ」  
監督 : 雑賀 俊朗 (本市出身)  
出演 : 朝比奈 彩 他  
ロケ地 : 市立総合体育館 他  
公開 : 令和4年(予定)
- (3) 映画 「カラダ探し」  
監督 : 羽住 英一郎  
出演 : 橋本 環奈 他  
ロケ地 : 市内各所  
公開 : 令和4年(予定)



### 3 北九州市民の手による作品

「地元を舞台に映画を作りたい」という市民の思いに応え、映画制作を経験したことのない市民による自主制作映画の撮影への支援を実施。

- (1) 映画「門司港ららばい」(令和2年)  
監督：和成  
出演：熊谷 弥香、和成、岡田 地平 他  
ロケ地：門司港駅、栄町商店街 他
- (2) 映画「めぐり逢わせの法則」(令和2年)  
監督：岩松 茂  
出演：豊永阿紀 小田彩加 (HKT48)、  
大和田 伸也 他  
ロケ地：平尾台、市立美術館、 他



### 4 海外作品 (タイ)

- ▶ タイの人気アーティスト KACHA (カチャ) のミュージックビデオ制作を支援したことを契機に、所属事務所が本市訪問のファン・ツアーを企画実施。(平成30年度)
- ▶ 令和2年度は、コロナ禍の中でもインバウンド回復に向けた準備として、上記 KACHA (カチャ) による本市と下関市の名称と両市の印象的な実景を挿入したミュージックビデオの作成とそのプロモーションを実施。
- ▶ 制作された楽曲「Until We meet (会える日まで)」は23万回再生を達成。



本市でのファンツアーの様子

## 登録エキストラの皆さんの声

### 【 エキストラの魅力 】

- エキストラの醍醐味は、自分の生きてきたことを作品で歴史に残せること。
- 撮影に参加することで、普段過ごしている街が変わる。まるで夢を見ているような体験ができる。
- エキストラに参加することで、自分の知らないロケ地も知ることができ、街の魅力を再発見することができる。
- 俳優に会えることが魅力。友達も増え、今では県外のエキストラにも参加するようになった。

### 【 将来の夢やキャリア実現のため 】

- 俳優や監督、スタッフ、機材担当など、映像業界の裏側を知ることができる。映像業界への夢を持っているため、その夢を垣間見ることができる
- 宝塚を夢見ており、母からまずエキストラに参加してみたらどうかと紹介されて始めた。エキストラを夢実現のきっかけにしたい。
- 俳優を目指しており、エキストラに参加することでその第一歩を踏み出すことができる。(中学2年生男子)

### 【 新たな出会いやコミュニティ 】

- エキストラをきっかけに10名くらいの仲良しグループができた。私みたいな20代から60代までと世代を超えた交流ができる。
- エキストラはみんな同じ体験をしているので、どの作品に出たなどの話をするのがとても楽しい。撮影現場だけでなく「帰りに焼きカレーを食べにいこう」「帰りに駅まで送りますよ」など、初めての方とも交流の輪が広がる。
- 20年以上エキストラをやっている。顔見知りが多く、撮影現場で会って話をするのが楽しみ。

### 【 ボランティア活動、いきがい 】

- エキストラを始める前は、家族、職場、介護だけと狭い世界だった。エキストラを始めることで友人もでき、新しい世界が広がった。エキストラで過ごす時間が生きがいになっている。
- エキストラによって仕事の行き帰りだけだった世界が広がり、日常から離れ、視野が広がった。エキストラをしている友人たちはみんな好きなことができているので、いきいきしていると感じる。
- エキストラ活動について、会社ぐるみで応援してくれる。撮影が急に平日になった時なども快く送り出してくれる。もともと地元を盛り上げたいという気持ちがあるので、エキストラでその活動ができることがうれしい。
- もともとボランティア活動が好きで、エキストラにも参加した。エキストラだけでなくサポートスタッフとしても映画づくりに携われるのはうれしい。映画に限らずCMや海外作品も多く北九州は映画に取り組む熱があると感じている。
- 定年を機にエキストラを始めた。演技したり、場合によってはダンス等、今までやったことのないことに挑戦することができる。10年以上続けており、今70代だが、もっと若いころに出会いたかった。